

1 学校教育目標

「進んで学習する子ども」「仲良く助け合う子ども」「礼儀正しい子ども」「元気でじょうぶな子ども」

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎ 夢 はばたく 梅島小学校 夢の実現に向けて、子ども、教職員、保護者・地域が共に支え合い高め合う学校
○児童・生徒像	【梅島ブランド】㊦：運動で体を動かしきたえ合い㊧：目で見つめ心でみつめて思い合い㊨：じっくり考え学び合い ㊩：まじめにやりぬき高め合い
○教師像	人間愛にあふれ、明るく前向きに対応する教師（教師の人間性） 子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師（教師の専門性） 主体的に課題解決をしながら、職務を遂行できる視野の広い教師（教師の主体性）

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

PTA や開かれた学校づくり協議会、地域の方の学校への信頼は厚い。特別な配慮を要する児童や個別に支援を要する児童がおり、組織的に対応している。

【前年度の成果と課題】

◎ 重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

前期に実施した区学力に関する総合調査では、国語・算数ともに昨年度より、目標とする85%に到達した。基礎的事項の確実な定着のため、「パワーアップタイム」・「放課後タイム」等の補充学習を継続し、つまずきの解消に努めていく。

◎ 重点的な取組事項－2 体力向上に向けた継続的な取組

投力は重大な課題である。投力を向上させるため、具体的な指導の工夫が十分にできなかった。体力テスト対策ではなく、日常的な取組を工夫していく。

◎ 重点的な取組事項－3 安全・安心な学校生活環境の充実

特別支援教育の充実や、いじめ防止に向けた取組をさらに充実させ、安心・安全な生活環境を整える。

◎ 重点的な取組事項－4 保護者や地域と共に子供を育む活動の充実

「情報発信」については高い評価を得た。「引き続き、積極的な情報発信と安全・安心を第一に考えた学校行事を実施し、保護者や地域との連携を深めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプランの着実な実行（梅島ブランドの「じ」）	○	◎	◎	◎	◎
2	体力向上に向けた継続的な取組（梅島ブランドの「う」）		○	○	○	○
3	児童の安心・安全な学校生活環境の充実（梅島ブランドの「め」）	○	○	○	○	○
4	保護者、地域、教職員、子どもが協働する活動の充実（梅島ブランドの「ま」）	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学習事項の確実な定着		年度初:2教科とも85%以上 年度末:2教科とも70%以上		年度初:国語 87.2% 算数 83.6% 年度末:国語 74.3% 算数 74.5%		基礎的事項の確実な定着に努める		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	① パワーアップタイムの確実な実施	○全学年 ○国語・算数	○毎週	○火曜(国語) 水曜(AIドリル) 金曜(読書)○担任 ○漢字・計算等 ○毎週水曜日は AI ドリルを実施する	○パワーアップテスト 1月～2月に実施	○90点以上の通過率:90%以上	パワーアップタイムは予定通り実施した。 漢字:91.5% 計算:93.7%	各学年、基礎的基本的な学習内容の指導を徹底した成果が表れている。	◎
継続	② 放課後補習教室の確実な実施	○学力のC/D層 ○国語・算数	○毎週火曜日の放課後	毎週火曜日の放課後 Aグループ:補充学習(担任2名) Bグループ:課題の取組(担任1名+副担任)	○区調査再実施 2月:現学年の内容	○区調査再実施 :国語・算数 通過率:70%以上	2月の通過率 国語:74.3% 算数:74.5%	放課後補習教室を確実に実施したため達成した。	○
継続	③ 家庭学習習慣の定着	○全学年 ○国語・算数	○6・9・1月の1週間	○担任・保護者 ○「家庭学習カード」による学習習慣の定着	○各学年の目標値の達成率	○家庭学習週間 :目標達成率 75%以上	家庭学習週間の達成率 6月 78%、9月 87% 1月 75.8%	継続して家庭学習の習慣を定着させていく。	○
継続	④ 授業改善の取組	○全教員	○毎時間	AS 振り返りの重視 ①「めあて」の達成度 ②本時で学んだこと ③できなかったこと	○教員アンケート:2月	○教員アンケート :「毎時間行った」の回答 60%	教員アンケート 2月:95%	足立スタンダードはおおむね身に付いている	○
継続	⑤ ICT 機器の活用	○全教員 ○全教科	○年間	タブレットを活用した授業実践	○学校ICT活用スキルチェック表 ○教員アンケート:2月	○80%以上の教員が「できる」の回答 10項目以上 ○「使える・使った」の回答を 90%以上	学校ICT活用スキルチェック表80%以上は12項目中8項目 タブレットを活用した授業は100%	タブレットは、毎日活用している。教員のスキルアップのための研修を計画する。	△
継続	⑥ 小中連携・校内研の実施	○全教員	○年間	○小中連携授業年間1回 ○校内研の実施	○教員アンケート:2月	○教員アンケート :「自身の授業力が向上した」の回答 90%	教員アンケート 2月:95%	授業研究に主体的に取り組むことができた。	○

重点的な取組事項－２		体力向上に向けた継続的な取組(梅島ブランドの「う」)			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力調査結果の向上		都平均と同じかそれ以上の項目 40%以上	都平均と同じかそれ以上の項目 96項目中29項目 30.2%	運動する環境を整えるとともに運動する機会を確保していく。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1)投力の改善	○各学年 1・2年生:5m以上 70% 3・4年生:10m以上 60% 5・6年生:15m以上 50%	①投力向上のための継続的な取組 ②投動作獲得のための遊びの実施 ③投力向上のための授業改善	投力向上に向けて投動作獲得のための遊びや運動を取り入れた授業について研修を実施し共通理解を図った。 1年:89% 2年:97% 3年:64% 4年:81% 5年:57% 6年:39%	5学年が目標を達成した。継続的な取組については今後の課題である。	○
(2)食育の実践	○目標残菜率 5%以下 ○お弁当コンクール応募者 100名以上	①給食だよりによる食育啓発 ②もりもりウィーク(年間2回)による啓発 ③お弁当コンクールの実践による家庭への啓発	年間の平均残菜率:2.9% お弁当コンクールの応募者:120名	給食指導時間の中で、喫食時間の確保に努めるとともにもりもりウィークやお弁当コンクールの実施により食育への関心を高めることができた。	◎
(3)歯科治療率の向上	○治療率 70%以上 (治療済/要治療者)	①保健だよりによる啓発 ②個人面談での直接指導 ③学校メールを活用しての啓発	治療済/要治療者:75.8%	全体への周知と個別の連絡を行った結果、治療率が向上した。	◎

重点的な取組事項－3		児童の安心・安全な学校生活環境の充実(梅島ブランドの「め」)			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の安心・安全な学校環境の整備		学校評価アンケート :すべてのアンケート項目において、肯定的回答を80%以上	学校評価アンケート :すべてのアンケート項目において、肯定的回答を85%以上	取組についてはさらに周知していく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1) いじめ対策の推進	いじめの解消率 年度末までに100% (発生後3か月未満を除く)	①アンケートの実施(年3回) ②いじめに関する授業の実施(年間1回) ③児童によるいじめ防止に向けた自治的な取組の実施(年間1回)	認知したいじめに対する解消率は年度末100%である。 いじめに関する授業は全ての学級において年間1回実施した。	引き続き、いじめに対する高い意識をもち、児童の状況把握に努めていく。	◎
(2) 体罰防止の徹底	体罰案件0件	①サービス事故防止研修会(年間3回) ②アンケートの実施(年間1回)	サービス事故防止研修年間3回実施 体罰案件は0件であったが、一部不適切な発言があった。	引き続き教職員への指導に努める。 児童への指導にあたっては、学年の教員など複数で指導することを徹底する。	○
(3) 特別支援教育の充実	保護者アンケート(多様性の認知について) :「そう思う」50%以上	①UDL(Universal Design for Learning)の実践 ②多様性の認知に基づいた教育実践(呼名「さん」、特別支援教室との連携、復籍交流の実践)	UDLを意識した教育活動に取り組んだ。 呼名は実践した。復籍交流も児童の実態に合わせて行った。 保護者アンケートで、「そう思う」回答は34.2%であったが肯定的な回答は、90.7%であった。	多様性の認知に基づいた指導については学校の取り組み内容を保護者に周知していく必要がある。	○

重点的な取組事項－４		保護者・地域、教職員、子どもが協働する活動の充実（梅島ブランドの「ま」）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者、地域、教職員、子どもが協働する学校づくり		学校評価アンケート :すべてのアンケート項目において、肯定的回答を80%以上	学校評価アンケート :すべてのアンケート項目において、肯定的回答を90%以上	今後も情報の発信を充実させていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1) 伝統・文化体験の実施	①年間1回4年生以上 ②年間1回6年生 参加児童のアンケートで肯定的回答80%以上	①生け花体験教室の実施 ②日本画体験教室の実施	4年生5年生で生け花教室を実施 6年生で日本画体験教室を実施 肯定的な回答：94.5%	教員が入れ替わる中でこの事業の安定的な継続を図っていくことが課題である。	◎
(2) 児童によるSDGsへの取組	各方策年間1回以上	①もったいない運動 ②清掃・ゴミの分別 ③リサイクル活動の実施	もったいない運動 年2回 清掃・ごみの分別 毎日 リサイクル活動の実施 4年生で水のリサイクルに、ごみのリサイクルについての学習を実施した。	これらの取り組みを引き続き行っていく。	○
(3) 情報発信の充実	保護者アンケート :「そう思う」50%以上	①学校ホームページを活用した教育活動やPTA、協議会の活動の定期的な配信 ②学校メールの効果的な配信に向けた体制の充実 ③ICTを活用したアンケートや連絡等のペーパーレス化	学校ホームページを活用して教育活動やPTA、協議会の活動の定期的な配信を行った。 学校メールのH&Sを活用した配信を行った。 ICTを活用したアンケートや連絡等のペーパーレス化を図った。 ・保護者アンケート「そう思う」42.9% 肯定的な回答96.9%	積極的な情報発信に努める。内容について精査していく必要がある。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

◎ 重点的な取組事項—1 学力向上アクションプラン

4月に実施した区学力に関する総合調査では、国語は、全校での音読活動や漢字の練習を継続してきた成果が学校全体の通過率向上に表れている。算数は、通過率90%を超えた学年もあり、基礎・基本の定着が見てとれる。しかし、高学年は通過率が80%を下回り、学力の二極化が表れている。これは、学習意欲の低下や下学年のつまずきが解消できていない児童が多いことが原因である。系統的な学習指導を展開するための授業改善に努めるとともに、基礎的事項の確実な定着のため、「パワーアップタイム」や「放課後タイム」等の補充学習をさらに充実させ、つまずきの解消に努めていく。

◎ 重点的な取組事項—2 体力向上に向けた継続的な取組

児童の体力向上のために教員の指導力向上や体力向上に向けた取組の共通理解を図るために研修を行った。今後はさらに日常的な取組について検討し実践していく。

◎ 重点的な取組事項—3 児童の安全・安心な学校生活環境の充実

引き続き保護者や地域とともに連携しながら、安全な環境整備の充実に努めていく。

特別支援教育の充実や、いじめ防止に向けた取組をさらに充実させ、安心・安全な生活環境を整える。

◎ 重点的な取組事項—4 保護者、地域、教職員、子どもが協働する活動の充実

情報発信については、学校ホームページやHome&Schoolを活用してアンケートや連絡等を行い、ペーパーレス化を図った。

引き続き積極的な情報発信と安心・安全を第一に考えた学校行事を実施し、保護者や地域との連携を深めていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

梅島小学校では、引き続き、子供の発達段階を考慮しながら、6年間かけて目指す児童像である「運動で体を動かしきたえ合い」「目で見つめ心で見つめて思い合い」「じっくり考え学び合い」「まじめにやりぬき高め合い」のできる児童を育てていきます。

登校時の見守りにご協力いただきありがとうございます。子供たちのマナー向上や安心・安全な学校づくりに効果的な取組として大きな成果を上げています。子供の生活習慣と学力・体力の定着には関連があります。「早寝・早起き・朝ごはん」や「家庭学習の習慣」についてご協力をお願いいたします。子供たちの健全育成に向けて、学校と家庭、地域が連携して取り組んでいきたいと考えます。よろしく願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

「教職員の働き方改革」を推進して、教員が子供と向き合う時間やゆとりを確保していきます。そうすることで、子供たちが安全に安心して学び、生活できる学校生活環境を整えていきます。

保護者や地域の方々が学校の教育活動に対する理解を深め、支援していただけるように情報発信の充実に取り組んでいきます。